

人文学基礎（人文学と対話）第7回

人文学と現代の共生や人権の課題

主担当教員：高橋 綾（人文学林 講師）

副担当教員：火曜 菅原裕輝先生（人文学林）木曜 西村高宏先生（人文学専攻）

TF：火曜 陳凱歡さん（言文） 水曜 村井勇輝さん（外国学）

TA：火曜 チョスンヨンさん（日本学）水曜 春川千潮さん（言語文化学）

木曜 阿部悠太さん（人文学）・泊慎太郎さん（日本学）

授業の目的と内容

【目的】

人文学と現代の共生や人権の課題についてグループに分かれて対話と探究を行います

【内容】

1. はじめのミニワーク ”発声練習” (15分)
2. 今日のワークの説明+グループ分け (15-20分)
3. 対話型ワーク⑦
人文学と現代の共生や人権の課題の事例について、対話と探究を行う
(40-45分)
4. このテーマに関する補足・授業に関する連絡 (15分)

はじめのミニワーク ”発声練習”

- (1) 教員が一言・一文で答えられる簡単な質問をします。
- (2) 名前を呼ばれた人は、「私の名前は〇〇です、質問への答えは～～です」と最初の質問への答えを短く、一言で答えてください。
(この時点で、その日の授業への参加に支障がある場合は申し出てください)
- (3) 自分の番が終わったら、次の人を指名します。この時、自分の番が回ってきていない人は、指名する人がわかりやすいように、手を上げるなどのアピールをしてください。
- (4) 全員が話し終えるまで、これを繰り返します。

今日の質問は、 「 _____ 」です。

この質問に答え、ジェスチャーをしながら次の人を指名してください。



対話型ワーク⑦

人文学と現代の共生や人権の課題について
対話と探究を行う

人文学と現代の共生や人権の課題についての3つの事例（事前学習動画）

事例1（「日本語お上手ですね」は適切か）：私はある研究会で、自分と研究領域や関心が近いテーマの発表を聞いた。発表者は名前と見た目から日本以外の国にルーツのある人だと思われたため、発表が終わって廊下にいる発表者に「発表を興味深く聞きました。ところで、日本語がすごくお上手ですね。」と話しかけた。すると、相手はすこし不快そうな表情を浮かべ、次の用事もあったのか、どこかに行ってしまった。…

日本以外の国から来た（と思われる）人に「日本語がお上手ですね」と声をかけるのはA：適切である／B：適切ではない

事例2（歴史教科書の女性の記述）：・・・最近では、日本の高校の世界史、日本史の教科書で、具体的な名前を持つ女性の活動を紹介することや、歴史のなかで男性とは異なる経験をした女性たちの経験を取り上げ、歴史的な出来事をジェンダーの視点から紹介する動きがある。

歴史の教科書に、女性やジェンダーの記述をA：増やすべきである／B：増やす必要はない


事例3（美術館の対応）：私は、学芸員になるために、ある美術館での実習を行なっている。ある時、視覚障がい者の方から「そちらの美術館の展示をぜひ鑑賞したいが、目が見えないので、触ったり音声で説明してもらったりするなど、視覚以外の情報が必要です。できれば作品を触って鑑賞したいのですが、対応していただけますか？」と電話で問い合わせがありました。…博物館・美術館は、ハンディキャップのある人の個別の要望にA：応える必要がある／B：応える必要はない


→事例1～3のうち、関心があるものを選んでグループに参加し、A/B二つの立場を選んだ理由・論拠を述べ、反対の立場の意見（理由・論拠）について質問をしてみよう


人文学研究の倫理に関する事例について対話と探究を行う

【ワークの目的】第6、7回のワークの目的は、意見や立場が分かれるトピックについての対話と探究です

そのために必要な態度、スキルは以下のものです

自分が選んだ立場で、そう考える理由・論拠を他者が理解できるしかたで提示する

反対の立場の考えや理由・論拠をより理解するために質問をする

双方の意見の違いの根底に、どのような価値や前提の違いがあるのかを見つける／立場や考えが違って、ともに探究できること（共有できる論点＝ふりかえりシートの項目9）を見つける

 **A、Bの意見のどちらが正しいかを定めるため議論や論証することは今回のワークの目的ではありません**



今回はティーチングスタッフがいる場合は進行役をしますが、もしいない場合は受講者で進行役を決め下記の手順で話し合いをおこなってください。

(1) 事例のシェア・確認：自分たちのグループが選んだ事例について、全員が内容を理解できているか、確認する

(2) それぞれの立場、理由や論拠のシェア：グループの全員が、事例に関する問いについて、AかBのどちらかの立場に立ち、そう考える理由をできるだけ短くチャットに書く 例→「A：~~~~だから」

全員がチャットに立場と理由を書いたら、一番上の人から、書いたことを口頭でも短く説明する

(3) 異なる立場の人・理由・論拠について質問をしよう：反対の立場の人やその理由・論拠について質問をしてみましょう

 反論はしない  哲学者の工具箱の「反例」を使って質問してみよう


もし、グループ全員が片方の立場を選んだ場合は、全員で反対の立場の人の理由・論拠を考えてみましょう


(4) 根底にある価値や前提の違いについて話し合ってみよう：AとBの意見の違いの根底に、どんなちがい（誰の目線で見ているか、言葉の意味づけ、条件、価値や前提のちがい、など）があるか話し合ってみましょう、あるいはAとBの立場で共通に話し合える〈問い〉や論点を見つけ、それについて話しましょう


第7回の対話における注意点

- ◆ 第7回では、DIEJに関連するテーマについて話し合います。こういったテーマでは、対話中の発言によって他者への偏見が反復されたり、**マイクロアグレッション※**につながる可能性があるため、発言する前に少し言い方や内容を考えてみましょう。
- ◆ ただし、他者を傷つけることや対立、過ちを恐れて何も言わない、のではなく、自分の感じていること、思っていることを、他の人にもわかってもらえる、受け止めやすいように言うことにチャレンジしましょう。

- ◆ 「偏見 bias」について：全ての人は、それぞれの考え方や認知の枠組み（前提、フレーム）を持っており、どんな事柄でも、前提やある種の偏見bias なしに考えることはできません。したがって・・・

 自分の認識に偏りが無い、中立・客観的である、と思込むほうが危険！自分および他の人は、それぞれの属性や立場によって見方が限定・規定されているということに意識を向けよう

 自分の考えの枠組みに合う情報だけではなく、自分の考えとは違う、自分の枠組みにはおさまらない情報、意見を積極的に聞き、調べよう

 自分の発言に対して「不快だと感じた、傷ついた」と言う人がいる場合には、「そんなつもりではなかった」などと即座に否定せず、相手がそう感じた理由や相手と自分の属性や立場の違いからくる見方の違いについてよく考えてみよう

- ◆ 異なる価値観や立場の人と対話することは簡単ではありません。多様性があるグループでの話し合いは、コンフリクトや困難も生みますが、出された結論の妥当性や創造性は、多様性がないグループを上回ることが、いくつかの研究※2では指摘されています。

* 第7回のテーマについても、ワークの目的上、両方の立場の意見が許容されます。多様な意見を聞くことが難しいと思う場合は、その事例を選ばないでください。また今回に限り、その話を続けることが精神的に辛くなった場合は、途中退出を認めます。その場合は、退出した理由を教員には連絡してください。

※1 Micro Agression：無意識の偏見や思い込みが言葉や態度に現れ、自分は意図しなくても他者に対して否定的なメッセージとして伝わり、傷つけてしまうこと

※2 Cf. S.R. Sommers *On Racial Diversity and Group Decision Making: Identifying Multiple Effects of Racial Composition on Jury Deliberations*

【参考】アサーション（適切な自己主張）という考え方

- ◆ うまく対話ができない状況では、私たちの自己表現は、
アグレッシブな自己表現：自分の言いたいことだけを相手に押し付ける、相手<自分のコミュニケーション
ノンアサーティブな自己表現：自分の言いたいことを主張しない 相手>自分のコミュニケーション
のどちらかに偏りがちです。この偏りをなくし、自分も他人も尊重する適切な自己表現がアサーションです




イラスト：楠木雪野

- ◆ 対話では、対等な関係とそれぞれが言いたいことを話すことが重要ですが、それぞれの人々が適切に自己主張できない環境であると、対話の場に力の不均衡が生じ、弱い立場の人・マイノリティを抑圧する場にもなりえます
- ◆ 対話のなかでは、以下のようなアサーションの考え方が参考になります

*できれば、「あなたはまちがっている／～という考えは偏見である」という形ではなく「私の考えはあなたのものとはちがう、私は同意しない／～という考えが本当かはわからないと思う／～という考えを聞いて私は傷ついた、悲しい」(I message) という形で、冷静かつ率直に伝えるほうがよい。

*話し合いの場に不均衡がないか（自分の意見を一方的に主張していないか、逆に、相手だけに説明や質問をさせていないか）に気をつけよう

*アサーションについては、日本看護協会HPの高橋の連載『コロナの時代の対話とケア』第3回 (<https://jnapcdc.com/LA/takahashi03/>)などを参照のこと。



このテーマに関する補足・
ふりかえりシートの記入等について

【ふりかえり】事例についてさらに考えるべきこと

事例1：日本以外の国から来たと思われる人に「日本語がお上手ですね」と声をかけるのはA：適切である／B：適切ではない

【事例の本質的問題、論点（のひとつ）】

日本語が上手に話せるのは「日本人」だけなのか？／多文化・多民族社会では、その人の見た目や話し方と、その人の出生やルーツは分けて考えるべきではないか？

欧米のような多文化・多民族社会では、その人の見た目や話し方で、その人の出生やルーツを判断しない・できないことが多いため、上のような声かけは相手の背景がわからない場合にはしないことが多い。日本の場合、まだ欧米のような多文化・多民族社会ではないという思い込み、外国にルーツがある人＝日本語がはなせないという思い込みがある人が多いことや、悪気なく外国から来た方が日本語を話してくれることがうれしくて上の声かけをする人がいる。ただ、上のような声かけは、言うほうに悪気がなくても、相手の背景や立場次第では「いつまでたっても『よそ者』扱いされる」というふうを受けとられ「マイクロアグレッション」につながる可能性があることに留意すべきである。

事例2：歴史の教科書に、女性やジェンダーの記述をA：増やすべきである／B：増やす必要はない

【事例の本質的問題、論点（のひとつ）】

歴史の教科書に女性やジェンダーの記述を増やすとしたら、どういう目的で、どのように増やせばよいのか？

歴史の記述は誰の観点から、何のためになされるのか？ 中立あるいは公正な歴史記述は可能か、どのようにして可能か？

歴史の教科書に女性・ジェンダーの記述が少ないのは、歴史の記述が「（西洋人の）男性の見方中心」でなされてきたことが大きな原因だと考えられる。近年の研究では、事実として活躍した女性が少ないわけではなく、活躍した女性がいても男性ほど評価がなされず、見過ごされるケースがあることがわかっている。※1 また、「人間＝男」という一元化によって、歴史・社会の経験におけるジェンダー間の差異が無視されているという指摘もある。※2（この問題は非西洋の視点での歴史記述や庶民の生活史が従来の歴史記述に少ないというような問題とも通底する。）歴史の教科書に女性やジェンダーの記述を増やすとしたら、単に取り上げる女性の数を増やせばよいというものではなく、歴史記述がある特定の属性の人の見方に偏っていたことを是正するために何が必要かを考えるべきだろう。

※1：ロンダ・シービンガー著、小川真理子他訳『科学史から消された女性たち—アカデミー下の知と創造性』、工作舎。

※2：富永知津子『高校世界史教科書のジェンダー化にむけて』、https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/15/5/15_5_5_58/_pdf/-char/ja

事例3：博物館・美術館は、ハンディキャップのある人の個別の要望にA：応える必要がある／B：応える必要はない

【事例の本質的問題、論点（のひとつ）】

ハンディキャップのある人が、公的な機関に特別な要望を出すのは「わがまま」なのか？

博物館・美術館における「合理的配慮」とはどのようなものであるべきか？

2013年に日本で成立した「障害者差別解消法」では、ハンディキャップ（障がい）のある人の個別の状況、要望（ニーズ）に応じて必要かつ適切な調整を行う「合理的配慮 reasonable accommodation」が公的機関には義務づけられており、2024年からは民間事業者にも義務づけられるようになった。※ スロープや点字ブロックを設置するという不特定多数に対応するバリアフリーな環境整備だけでなく、「合理的配慮」は、ハンディキャップのある人の個別の状況や要望にできる限り調整、対応することが求められている。「合理的配慮」の場合は、ミュージアム側が無理のない範囲で対応するのでよいが、対応する範囲をミュージアム側の都合だけで決めることがないように、要望を出した当事者とコミュニケーションを十分にとり、双方が対応策についてについて合意、納得することが必要である。（美術館の場合は、障がいがある人が鑑賞に参加することを新たな鑑賞法を創造する機会とする、視覚障がい者と晴眼者が言葉で作品を鑑賞するワークショップの例もある。）※国立アトリサーチセンター編『ミュージアムの事例から知る！学ぶ！ 合理的配慮ハンドブック』 <https://ncar.artmuseums.go.jp/reports/accessibility/post2024-941.html>

第7回の内容は、人文学の対象（文化）が社会構造のなかに組み込まれ、反映していること、だとすれば、それを研究するという行為も、このような社会構造のなかで生じる問題と無関係ではいられないのではないかと問いかけています。また、学術研究を含む、「普遍・中立的」とされている文化の枠組みが、ある特定の属性の人の見方に偏ったものであり、意図せずともそこから排除される人の価値や人権を貶めることにつながっているのではないかと可能性=認識的不正義についても考えてみる必要があります。

人文学研究を、差別・偏見や分断がなくし、多様な人たちが理解しあい、共生できる社会をつくるために活かすことができないかということについて引き続き考えてみてください。

ふりかえりシートの記入・提出について

◆ 今回も、今日の対話を振り返って、ふりかえりシートを記入し、提出してください。

◆ 今回は（3）の項目に以下のことを書いてください

・自分のグループの事例の番号（事例1～3）

・グループで事例について話し合ってみて、あなたが考えたり、気づいたりしたこと

◆ 第8回（人文学を社会に活かす・人文学の大学院生のキャリア形成）については、下記の（1）と（2）を視聴してください。グループワークでは、これらの動画を見てあなたが考えたことやキャリアについて考えていることを話してもらいます。

（1）全員必ず視聴：人文学実務研究・インターンシップ担当の松尾先生のインタビュー

（2）選択：修了生の動画、1~2本：人文学研究科で学び、社会で活躍する修了生のインタビュー

（1）（2）を視聴して考えたことを〈問い〉（とその答え）の形にして一つ準備してきてください。

人文学基礎（人文学と対話）ふりかえりシート 第 回（ 月 日）分

クラス：春学期 曜日 名前（授業でのニックネーム）

【1】（必須）今日の授業（現時点）でのあなたの態度・状態を振り返って正直に記入してください

		1 苦手である ・できない	2 少しかける ・努力して いる	3 時々できる	4 できる	5 いつでも よくできる
セルフ ティ・ アサー ティブ ネス	1.自分とは異なる感じ方や考えでも、いきなり批判や否定せず、聴き、理解しようとする 2.自分の困りごとや相手にとってネガティブなこと、相手と自分の意見が違っても、それらを率直かつ適切な言い方で伝える 3.様々な属性、能力や特性の人が発言しやすい場をつくるために配慮する					
質問・ア クティ ブリス ニング・ 共感	4.自分とは異なる感じ方、考え方を持つ人に対して、相手の考えや自分と他人の違いを知るためにさまざまな角度から質問をする 5.他者の感じ方、考え方について、相手の立場に立って、共感的に理解する					
セルフ アウェア ネス	6.他者との対話のなかで、自分が感じ、考えていることや無意識に当たり前と思っていたこと（前提）にあらためて気づく					
協働の 探究	7.具体的な事柄や複雑な問題について、自分で考える切り口を見つけ、探究のための「問い」を立てる 8.他者の考えたいことや「問い」を理解し、それに応答し、寄与する意見を言う 9.協働の探究が進むように、積極的に新しい論点を出し、対話の進行についての提案をする					
		1 まったく 感じない	2 すこし そう感じる	3 そう感じる	4 かなり そう感じる	5 強くそう 感じる
コミュ ニティ 形成	10.対話の参加者（クラスのメンバー）に対して、違いがあっても協働して探究することのできる仲間（コミュニティ）だと感じる					

【2】（必須）今日の対話で、印象に残ったこと、自分や他人、テーマについての気づき特に（1）の項目の自己評価がよくも悪くも変わった場合には、そう考えた理由を書く

【3】（授業内で指示があった場合必須）授業の内容のふりかえり、グループで話された内容についての気づき、あなたが考えたこと

【4】（任意）教員からの回答や対応が必要なこと